

大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科 学位論文等審査基準

[博士前期課程]

修士論文審査基準

1. 学位（修士）授与の判定基準

学位授与の方針（ディプロマポリシー）に基づき、高度な専門的知識と客観的視野と応用力を持つと認められた者に対して、修士（スポーツ科学）の学位を授与する。

2. 修士論文審査基準

学位（修士）論文は、その内容の一部が関連学会または研究報告会で発表されている事を条件とし、次の審査基準に基づいて審査する。

（1）研究の目的・課題の明確性

- ① 先行研究が十分に検討されている。
- ② 不明な知見を踏まえ、研究の学術的または実践的意義が示されている。
- ③ 研究の目的および取り組むべき研究課題が明確に示されている。

（2）研究方法の妥当性

- ① 研究方法是研究課題に対して妥当であり、適切に設定されている。
- ② 研究の手順が適切に実施されている。
- ③ 分析の処理が適切に行われている。

（3）研究の信頼性

- ① 研究の信頼性を担保するために適切なデータ（情報、資料等）が収集されている。
- ② 研究の全過程において、倫理的配慮がなされている。

（4）論旨の一貫性

- ① 研究の過程において、その論旨が明確かつ一貫している。

（5）研究成果の意義

- ① 研究成果として、学術的または実践的意義が示されている。

（6）論文の体裁

- ① 当該領域に求められる学術論文としての体裁が整えられている。

特定の課題についての研究の成果 審査基準

課題研究は、その内容の一部が関連学会または研究報告会で発表されている事を条件とし、次の審査基準に基づいて審査する。

(1) 研究の目的・課題の明確性

- ① 社会課題、あるいは教育現場を取り巻く課題が検討されている。
- ② その課題解決に向けた実践的意義が示されている。
- ③ 研究の目的および取り組むべき研究課題が明確に示されている。

(2) 研究方法の妥当性

- ① 研究方法是研究課題に対して妥当であり、適切に設定されている。
- ② 研究が適切な手順で実施されている。

(3) 研究の信頼性

- ① 研究課題に応じたデータ（情報、資料等）の収集および管理が適切になされている。
- ② 研究の全過程において、倫理的配慮がなされている。

(4) 論旨の一貫性

- ① 研究の過程において、その論旨が明確かつ一貫している。

(5) 研究成果の意義

- ① 研究成果として、社会あるいは教育の課題解決に向けた実践的意義が示されている。

(6) 論文の体裁

- ① 課題研究の論文としての体裁が整えられている。

[博士後期課程]

博士論文審査基準

博士論文は、その内容の一部が英文または和文の学術雑誌に採択されていることを条件とし、次の審査基準に基づいて審査する。

(1) 研究の目的・課題の明確性

- ① 国内外の先行研究を網羅的に検討している。
- ② 専門領域における問題意識が明確で、研究の学術的または実践的意義が示されている。
- ③ 研究の目的および取り組むべき研究課題が明確に示されている。

(2) 研究方法の妥当性

- ① 研究方法は研究課題に対して妥当であり、適切に設定されている。
- ② 研究が適切な手順で実施されている。
- ③ 十分な根拠に基づいた分析、考察が行われている。

(3) 研究の信頼性

- ① 研究の信頼性を担保するために適切なデータ（情報、資料等）を収集・管理している。
- ② 研究の全過程において、倫理的配慮がなされている。

(4) 論旨の一貫性

- ① 研究の過程において、その論旨が明確かつ一貫している。
- ② 博士論文全体で、設定された研究課題に整合性・一貫性がある。

(5) 研究成果の意義

- ① 研究成果として、当該領域の発展に寄与する成果が示されている。

(6) 研究の独創性

- ① 研究テーマや方法、解釈の視点、研究成果などのいずれかに新規性があり、先行研究とは異なる論者の独創性が述べられている。

(7) 論文の体裁

- ① 当該領域に求められる学術論文としての体裁が整っている。

(8) 研究遂行のために必要な態度・資質

- ① 博士論文発表会における発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明快である。
- ② 自立した研究者として、研究の立案・遂行能力を身につけている。
- ③ 国内外で積極的にプレゼンテーション（研究発表・論文発表）等を行う能力を身につけている。

附則 この基準は、平成28年5月11日から施行する。

附則 この基準は、平成31年2月21日から施行する。

附則 この基準は、令和2年10月1日から施行する。